

# シャルリ・エブド襲撃事件について (いまだ)考え続けていること

ここ数年フランスではイスラム過激派によるテロが頻繁に起こっている。そのなかでも、2015年1月7日に起きた「シャルリ・エブド襲撃事件」は、言論の自由と宗教の尊厳にかかわる議論を呼び起こした。週刊誌「シャルリ・エブド」は、ムハンマドを戯画化したり、イスラム教の信仰を茶化すようなどぎつい風刺画を掲載していた。テロという暴力に対する非難は当然のことであるが、風刺はどこまで許されるのであろうか？

様々な議論を呼んだ「表現の自由」の問題を基に、今回は、3人の犯人に焦点を当てて、「文学」の側から何を語ることができるのか、考察する。

日時： 6月23日(金)

午後5時10分(開場は4時40分)

場所： 明治大学 和泉キャンパス  
和泉図書館ホール(1階)

講師： 陣野俊史氏

## 【講師プロフィール】

文芸評論家・フランス文学者。明治大学、早稲田大学などで教鞭を取る。著書に『フランス暴動 移民法とラップ・フランセ』(2006)、『戦争へ、文学へ「その後」の戦争小説論』(2011)、『世界史の中のフクシマ ナガサキから世界へ』(2012)、『サッカーと人種差別』(2014)など多数。



《コーディネーター：岩野卓司 教養デザイン研究科・法学部教授》

予約不要：学部生の受講可 ※学外の方も受講可能です。事前にお電話ください。

【教養デザイン研究科 TEL03-5300-1529】